

# 現代日本語終助詞研究文献目録

富 樫 純 一

キーワード：終助詞、文末表現、文献目録、研究論文

本文献目録は、現代日本語の終助詞に関する研究論文を挙げたものである。山田孝雄(1908)以降、2003年12月末現在までの論文を採録してある。

採録の基準としては、現代日本語の終助詞を取り扱っているものとした。終助詞を中心に扱っている論文が主であるが、モダリティ表現やジェンダーあるいは史の変遷が中心的な対象となっている論文でも、終助詞に関して言及している箇所があるものはできるだけ採録してある。なお、調査の都合上、方言における終助詞を分析している論文は採り上げていない。

各論文は発表年月順に並べてある。発表月が同一のものについては、著者名の五十音順で配列した。記載事項は、執筆者名、発表年月、論文名または書名、その他の書誌的情報(巻数および号数、頁数、発行団体名)の順となっている。また、本文献目録の末尾には著者名別の索引を付した。

文献調査にあたっては、筆者(富樫)の力が及ばず、採録から漏れてしまった論文があるかもしれない。また、文献の情報に関しても十分留意を払っているが、誤記等の不備が多々あるのではないかと思われる。これらの点についてはご寛恕賜りたく、またご教示、ご指摘願いたい。

本文献目録は、筆者のwebサイトにおいても公開している。URL(サイトのトップページのアドレス)は以下の通りとなっている。テキスト形式や表計算ソフト用のファイルも用意してあるので参照してほしい。

<http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/jtogashi/index.html>

文献目録に論文を追加した場合、あるいは訂正を行った場合には web サイト上で随時更新する予定である。したがって、本目録は発表時点で確定するものではなく、

論文が追加された最新版が常に web サイトにおいて公開されていることになる。web サイトの特性を生かした、動的な文献目録の構築を目指している。

なお、新たな論文の情報、訂正事項等の情報については、筆者宛にメールにてご一報いただければ幸いである。(メールアドレス: jtogashi@lingua.tsukuba.ac.jp)

---

【1908年～1970年代】

- 山田孝雄 1908, 09 『日本文法論』宝文館。  
山田孝雄 1922, 11 『日本口語法講義』宝文館。  
橋本進吉 1934, 12 「國語法要説」(『國語法研究 橋本進吉博士著作集第二冊』岩波書店(1948)所収, pp.1-81)。  
橋本進吉 1935 「助詞の研究」(『助詞・助動詞の研究 橋本進吉博士著作集第八冊』岩波書店(1969)所収, pp.1-221)。  
山田孝雄 1936, 05 『日本文法学概論』宝文館。  
佐久間鼎 1940, 04 『現代日本語法の研究』厚生閣。  
三尾 砂 1942, 01 『話言葉の文法(言葉遺篇)』帝国教育会出版部。  
時枝誠記 1950, 09 『日本文法 口語篇』岩波書店(岩波全書 114(1978)所収)。  
国立国語研究所 1951, 03 『国立国語研究所報告 3 現代語の助詞・助動詞 一用法と実例一』秀英出版。  
時枝誠記 1951, 12 「対人関係を構成する助詞・助動詞」『国語国文』Vol.20, No.9, pp.1-10, 京都大学国文学会。  
藤原与一 1953, 09 「日本語表現法の文末助詞 一その存立と生成一」『国語学』11, pp.64-74, 国語学会。  
芳賀 綏 1954, 04 「“陳述”とは何もの?」『国語国文』Vol.23, No.4, pp.47-61, 京都大学国文学会。  
佐治圭三 1957, 07 「終助詞の機能」『国語国文』Vol.26, No.7, pp.23-31, 京都大学国文学会。  
田中健子 1958, 09 「疑問表現形式の史的変遷 一会話文を中心として」『文学・語学』1, pp.71-81, 全国大学国語国文学会。  
宮地 裕 1959, 02 「文末助辭と質問の昇調」『国立国語研究所論集 1 ことばの研究』, pp.155-168, 国立国語研究所。

- 国立国語研究所 1960, 06 『国立国語研究所報告 18 話しことばの文型(1) 一対話資料による研究一』秀英出版.
- 尾田豊子 1964, 11 「女性のことば 一文末部分の表現を中心に」『立教大学日本文学』13, pp.66-77, 立教大学日本文学会.
- 渡辺 実 1968, 03 「終助詞の文法論的位置 一叙述と陳述再説一」『国語学』72, pp.127-135, 国語学会.
- 小松寿雄 1970, 04 「係助詞・終助詞・間投助詞」『月刊文法』Vol.2, No.4, pp.68-74, 明治書院.
- 石川禎紀 1972, 09 「近代女性語の語尾 一「てよ・だわ・のよ」一」『解釈』9月号, pp.22-27, 解釈学会.
- 上野田鶴子 1972, 10 「終助詞とその周辺」『日本語教育』17, pp.62-77, 日本語教育学会.
- 田中章夫 1973, 02 「終助詞と間投助詞」, 鈴木一彦・林巨樹(編)『品詞別日本文法講座 9 助詞』, pp.209-247, 明治書院.
- 鈴木英夫 1976, 11 「現代日本語における終助詞のはたらきとその相互承接について」『国語と国文学』Vol.53, No.11, pp.58-70, 東京大学国語国文学会.
- 田中章夫 1977, 02 「助詞(3)」『岩波講座日本語 7 文法Ⅱ』, pp.359-454, 岩波書店.
- 田中章夫 1977, 09 「文末・句末の表現と語法」『日本語・日本文化』6, pp.37-71, 大阪外国語大学研究留学生別科.
- 生田目弥寿 1979, 03 「感情を表す助詞 一会話指導の一助として一」『国際学会友会日本語学校紀要』3, pp.26-29, 国際学会友会日本語学校.

## 【1980年代】

- 北澤 尚 1983, 03 「意味記述についての一つの試み 一終助詞の分析一」『國學院大學大學院文学研究科紀要』14, pp.179-196, 國學院大學大學院.
- Tsuchihashi Mika 1983, 08 The speech act continuum: An investigation of Japanese sentence final particles. *Journal of pragmatics* Vol.7, No.4, pp.361-387.
- 水谷信子 1984, 07 「誤用分析 4 きのう新宿へ映画を見に行きましたね 一聞き手への関心を示す表現の誤用と非用」『日本語学』Vol.3, No.7, pp.113-115, 明治書院.
- 北川千里 1984, 08 「発言の階層構造と「ことば」の主体性」『日本語学』Vol.3, No.8, pp.31-42, 明治書院.
- 小倉 肇 1985, 04 「終助詞・間投助詞」, 鈴木一彦・林巨樹(編)『研究資料日本文法7』, pp.225-250, 明治書院.

- McGloin, Naomi Hanaoka 1986, 04 *Feminine wa and no: Why do Women Use Them?*  
*Journal of The Association of Teachers of Japanese* Vol.20, No.1, pp.7-27.
- 林 大 1986, 05 「「なわさよね」のこと」『日本語学』 Vol.5, No.5, pp.83-85, 明治書院.
- 大曾美恵子 1986, 09 「誤用分析1「今日はいいい天気ですね。」—「はい、そうです。」」  
『日本語学』 Vol.5, No.9, pp.91-94, 明治書院.
- 陳 常好 1987, 10 「終助詞 一話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞」  
『日本語学』 Vol.6, No.10, pp.93-109, 明治書院.
- 鈴木英夫 1988, 03 「終助詞についての構文論的研究 一問いかけと省略を中心にして—」  
『国語と国文学』 Vol.65, No.3, pp.1-16, 東京大学国語国文学会.
- 田野村忠温 1988, 03 「否定疑問文小考」『国語学』 152, pp.16-30, 国語学会.
- 蓮沼昭子 1988, 06 「続日本語ワンポイントレッスン」『言語』 Vol.17, No.6, pp.94-95, 大修館書店.
- 小松寿雄 1988, 11 「東京語における男女差の形成 一終助詞を中心として—」『国語と国文学』 Vol.65, No.11, pp.94-106, 東京大学国語国文学会.
- 宮崎和人 1989, 01 「疑問表現におけるモダリティの階層構造」『新居浜工業高等専門学校校紀要(人文科学編)』 25, pp.23-33, 新居浜工業高等専門学校.
- 梅原恭則 1989, 03 「助詞の構文的機能」, 北原保雄(編)『講座日本語と日本語教育 4 日本語の文法・文体(上)』, pp.302-326, 明治書院.
- 森山卓郎 1989, 03 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』 1, pp.63-88, 大阪大学文学部日本学科(言語系).
- 古座暁子 1989, 06 「～か、～のか 一会話文における場合—」『教育国語』 97, pp.23-33, 教育科学研究会.
- 大嶋真紀 1989, 07 「外国人の発話を不自然にする要因の分析 一中・上級日本語学習者の終助詞の使用をめぐって」『鹿児島大学史学科報告』 36, pp.103-112, 鹿児島大学教養部.
- 森山卓郎 1989, 08 「コミュニケーションにおける聞き手情報 一聞き手情報配慮非配慮の理論—」, 仁田義雄・益岡隆志(編)『日本語のモダリティ』, pp.95-120, くろしお出版.
- 森山卓郎 1989, 09 「文の意味とイントネーション」, 宮地裕(編)『講座日本語と日本語教育 1 日本語学要説』, pp.172-196, 明治書院.
- 田中俊子 1989, 12 「モダリティから見た終助詞」『東北大学日本語教育研究論集』 4, pp.84-97, 東北大学教養部日本語研修コース.

## 【1990年】

- 田野村忠温 1990, 01 「現代日本語文法Ⅰ 「のだ」の意味と用法」和泉書院。
- 神尾昭雄 1990, 05 「情報のなわ張り理論」大修館書店。
- Ide Sachiko 1990, 06 How and Why Do Women Speak More Politely in Japanese? In Sachiko Ide, and Naomi Hanaoka McGloin(eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*. pp.63-79, Tokyo: Kurosio Publishers.
- McGloin, Naomi Hanaoka 1990, 06 Sex Difference and Sentence-Final Particles. In Sachiko Ide, and Naomi Hanaoka McGloin(eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*. pp.23-41, Tokyo: Kurosio Publishers.
- Reynolds, Katsue Akiba 1990, 06 Female Speakers of Japanese in Transition. In Sachiko Ide, and Naomi Hanaoka McGloin(eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*. pp.129-146, Tokyo: Kurosio Publishers.
- 井上 優 1990, 12 「「ダロウネ」否定疑問文について」『日本語学』Vol.9, No.12, pp.28-35, 明治書院。

## 【1991年】

- 金水 敏 1991, 03 「伝達の発話行為と日本語の文末形式」『神戸大学文学部紀要』18, pp. 23-41, 神戸大学。
- 三宅 清 1991, 03 「明治期口語文典における副助詞・終助詞に関する一考察」『岡山大学教育学部研究集録』86, pp.7-15, 岡山大学教育学部。
- 山口佳也 1991, 03 「文節中の「か」の用法」『十文字学園女子短期大学研究紀要』22, pp. 1-6, 十文字学園女子短期大学。
- 山田 准 1991, 03 「終助詞の情報論的機能 — 「ワ」・「ヨ」・「ネ」とその複合形について—」『日本語・日本文化』17, pp.83-96, 大阪外国語大学研究留学生別科。
- 益岡隆志 1991, 05 「モダリティの文法」くろしお出版。
- 川森雅仁 1991, 07 「終助詞と認知様相」『自然言語処理研究報告』84, pp.41-48, 情報処理学会。
- 大曾美恵子 1991, 09 「「でしょう」「よ」とイントネーション」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』1, pp.40-50, 関西外国語大学留学生別科。
- 藤原真理 1991, 09 「助詞「よ」の用法と機能」『東北大学文学部日本語学科論集』1, pp. 120-131, 東北大学文学部日本語学科。
- 金水 敏 1991, 12 「書評論文：「情報のなわ張り一言語の機能的分析」」『言語研究』100, pp.106-119, 日本言語学会。

田野村忠温 1991, 12 「「～だか」という言い方」『大阪外国語大学論集』6, pp.123-133, 大阪外国語大学.

中野伸彦 1991, 12 「「ね」・「よ」の働きについて」『山口大学教育学部研究論叢—人文科学・社会科学—』41, pp.1-17, 山口大学教育学部.

【1992年】

横山正幸 1992, 02 「幼児による終助詞「ね」の獲得 —R 児の場合—」『福岡教育大学紀要 第四分冊 教職科編』41, pp.351-357, 福岡教育大学.

鄭 相哲 1992, 03 「いわゆる確認要求の「ネ」と「ダロウ」 —情報伝達論的な観点から—」『日本学報』11, pp.105-120, 大阪大学文学部日本学研究室.

服部 匡 1992, 03 「現代語における「～か」のある種の用法について」『徳島大学国語国文学』5, pp.57-65, 徳島大学.

橋本 修 1992, 05 「終助詞複合形の意味分析」『国語学会平成4年度春季大会要旨集』, pp.133-138, 国語学会.

益岡隆志・田窪行則 1992, 05 「基礎日本語文法 —改訂版—」くろしお出版.

白川博之 1992, 07 「終助詞「よ」の機能」『日本語教育』77, pp.36-48, 日本語教育学会.

蓮沼昭子 1992, 09 「終助詞の複合形「よね」の用法と機能」, 筑波大学つくば言語文化フォーラム(編)『対照研究 第二号 発話マーカ—について』, pp.63-77, 筑波大学.

伊豆原英子 1992, 10 「「ね」のコミュニケーション機能」, カッケンブッシュ寛子他(編)『日本語研究と日本語教育』, pp.159-172, 名古屋大学出版会.

太田淑子 1992, 10 「談話にみる性差の様相 —終助詞を中心として—」『横浜国立大学教育紀要』32, pp.329-342, 横浜国立大学教育学部.

森山卓郎 1992, 10 「疑問型情報受容文をめぐって」『語文』59, pp.35-44, 大阪大学国語国文学会.

莊司育子 1992, 11 「疑問文の成立に関する一考察 —「デス」という形式をめぐって—」『日本語・日本文化研究』2, pp.39-50, 大阪外国語大学日本語講座.

田窪行則 1992, 11 「談話管理の標識について」, 文化言語学編集委員会(編)『文化言語学 —その提言と建設』, pp.1110-1097, 三省堂.

橋本 修 1992, 11 「終助詞「ね」の、意味の型とイントネーションの型 —長く急激な下降イントネーションの解釈を中心に—」『日本語学』Vol.11, No.12, pp. 89-97, 明治書院.

佐々木泰子 1992, 12 「終助詞「ね」と丁寧さとのかわり」『言語文化と日本語教育』

4, pp.1-10, お茶の水女子大学大学院人間文化研究科.

服部 匡 1992, 12 「汎性語の終助詞ワについて」『同志社女子大学学術研究年報』43, pp. 1-15, 同志社女子大学.

松浦千佳子 1992, 12 「失文法患者の「ね」 —情報のなわ張り理論から—」『名古屋大学言語学論集』8, pp.59-80, 名古屋大学文学部言語学研究室.

【1993年】

古本裕子 1993, 01 「疑問表現における問いかけの機能について」『ことばの科学』5, pp. 29-42, 名古屋大学言語文化学部言語文化研究会.

メイナード, 泉子・K 1993, 01 『会話分析』くろしお出版.

中西泰洋 1993, 02 「文末詞の待遇的な機能についての一考察」『神戸大学留学生センター紀要』1, pp.77-94, 神戸大学留学生センター.

井上 優 1993, 03 「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」—命令文・依頼文を例に—」『国立国語研究所報告105 研究報告集14』, pp.333-360, 秀英出版.

小野晋・森辰則・中川裕志 1993, 03 「終助詞の関係意味論的考察」『自然言語処理研究報告』94, pp.1-8, 情報処理学会.

近藤研至 1993, 03 「彼女はなぜ「チューしてね」といわなかったのか」『文教大学国文』22, pp.1-11, 文教大学国文学会.

白川博之 1993, 03 「「働きかけ」「問いかけ」の文と終助詞「よ」の機能」『日本語教育学科紀要』3, pp.7-14, 広島大学教育学部.

鄭 相哲 1993, 03 「「ダロウカ」の意味・用法の記述 —情報伝達・機能論的な観点から—」『日本語教育論集 世界の日本語教育』3, pp.163-175, 国際交流基金日本語国際センター.

増倉洋子 1993, 03 「終助詞「わ」の使用頻度による比較の一考察」『湘南文学』27, pp. 130-141, 東海大学日本文学会.

三宅知宏 1993, 03 「派生的意味について —日本語質問文の一側面—」『日本語教育』79, pp.64-75, 日本語教育学会.

金水 敏 1993, 04 「終助詞ヨ・ネ」『言語』Vol.22, No.4, pp.118-121, 大修館書店.

マグロイン・花岡直美 1993, 05 「終助詞」『日本語学増刊号』Vol.12, No.6, pp.120-124, 明治書院.

Itani, Reiko 1993, 06 The Japanese sentence-final particle *ka*: a Relevance-theoretic approach. *Lingua* Vol.90, Nos.1/2, pp.129-147.

- 伊豆原英子 1993, 07 「「ね」と「よ」再考 —「ね」と「よ」のコミュニケーション機能の考察から—」『日本語教育』80, pp.103-114, 日本語教育学会.
- 橋本 修 1993, 07 「疑問形+終助詞「ね」のあらわす意味の類型」, 小松英雄博士退官記念日本語学論集編集委員会(編)『小松英雄博士退官記念日本語学論集』, pp.712-700, 三省堂.
- 伊豆原英子 1993, 09 「終助詞「よ」「よね」「ね」の総合的考察 —「よね」のコミュニケーション機能を軸に—」『日本語・日本文化論集』1, pp.21-34, 名古屋大学留学生センター.
- 岡本真一郎 1993, 10 「情報への関与と文末表現 —間接形と終助詞“ね”の使用への影響—」『心理学研究』Vol.64, No.4, pp.255-262, 日本心理学会.
- 中野伸彦 1993, 10 「終助詞の連接形「よね」について」, 松村明先生喜寿記念会(編)『国語研究』, pp.743-763, 明治書院.
- 野田春美 1993, 10 「「のだ」と終助詞「の」の境界をめぐる」『日本語学』Vol.12, No.11, pp.43-50, 明治書院.
- 松木正恵 1993, 10 「「の」と終助詞の複合形をめぐる」『日本語学』Vol.12, No.11, pp.51-64, 明治書院.
- 小野晋・中川裕志 1993, 11 「終助詞の関係意味論的考察 —「ぞ」「ぜ」を中心として—」『自然言語処理研究報告』98, pp.41-48, 情報処理学会.
- 中野伸彦 1993, 11 「終助詞の男女差の形成 —江戸語における男女差形成の動き—」『山口大学教育学部研究論叢—人文科学・社会科学—』43, pp.41-52, 山口大学教育学部.
- 北野浩章 1993, 12 「日本語の終助詞「ね」の持つ基本的な機能について」『言語学研究』12, pp.73-88, 京都大学言語学研究会.
- 近藤研至 1993, 12 「ヨの意味」『文教大学教育学部紀要』27, pp.148-156, 文教大学教育学部.
- 野田恵子 1993, 12 「終助詞「ね」と「よ」の機能 —「よね」と重なる場合—」『言語文化と日本語教育』6, pp.10-21, お茶の水女子大学大学院人間文化研究科.
- 福島悦子 1993, 12 「終助詞の機能 —話者の性提示という観点から—」『東北大学留学生センター紀要』1, pp.10-15, 東北大学留学生センター.
- 宮崎和人 1993, 12 「「～ダロウ」の談話機能について」『国語学』175, pp.63-50, 国語学会.



## 【1994年】

- 吉田茂晃 1994, 02 「疑問文の諸類型とその実現形式 —ノデスカ/マスカ型疑問文の用法をめくって—」『島大国文』22, pp.1-13, 島大国文会.
- 福島悦子 1994, 03 「終助詞「ね」の用法と機能：指導上の留意点」『東北大学留学生センター紀要』2, pp.55-62, 東北大学留学生センター.
- 伊豆原英子 1994, 07 「感動詞・間投助詞・終助詞「ね・ねえ」のイントネーション —談話進行との関わりから—」『日本語教育』83, pp.96-107, 日本語教育学会.
- 伊豆原英子 1994, 09 「終助詞「よ」の使用と使用制約 —情報と待遇性の関わりから「よ」の使用条件を探る—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』2, pp.43-63, 名古屋大学留学生センター.
- 牧原 功 1994, 12 「間接的な質問文の意味と機能 —ダロウカ、デショウカについて—」『筑波応用言語研究』1, pp.73-86, 筑波大学文芸・言語研究科.

## 【1995年】

- 徳井(坂井)厚子 1995, 02 「『独話』における女性語の使用・非使用をめくって」『信州大学教養部紀要』29, pp.65-75, 信州大学教養部.
- 吉良文孝 1995, 03 「モダリティと疑問助詞「か」のスコープについて」『日本大学文理学部人文科学研究センター研究紀要』49, pp.71-88, 日本大学文理学部人文科学研究センター.
- 楠本徹也 1995, 03 「終助詞「よ」の待遇性に関する一考察」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』21, pp.1-14, 東京外国語大学留学生日本語教育センター.
- 蓮沼昭子 1995, 05 「対話における確認行為「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」, 仁田義雄(編)『複文の研究(下)』, pp.389-419, くろしお出版.
- 鄭 相哲 1995, 10 「ネとダロウとジャンナイカ —確認要求形式」, 宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(上)』, pp.263-274, くろしお出版.
- 中野伸彦 1995, 10 「終助詞「さ」「な」の働きについて」, 築島裕博士古希記念会(編)『築島裕古希記念 国語学論集』, pp.1063-1085, 汲古書院.
- 池田 裕 1995, 11 「『連載』待遇表現の諸相7 終助詞と丁寧さ」『言語』Vol.24, No.11, pp.102-103, 大修館書店.
- 片桐恭弘 1995, 11 「終助詞による対話調整」『言語』Vol.24, No.11, pp.38-45, 大修館書店.
- 鷲 留美 1995, 11 「東京語終助詞「な」の機能について —文末のモダリティ形式との関係—」『日本語・日本文化研究』5, pp.107-119, 大阪外国語大学日本語

講座.

- 下山千秋 1995, 12 「文末における「よね」 —「ね」と比較しながら」『ことばの科学』  
10, pp.51-66, 名古屋大学言語文化部言語文化研究会.
- 服部 匡 1995, 12 「終助詞の機能について —伊勢方言の「よ」の用法の記述と「よ」との  
比較—」『言語学研究』14, pp.199-211, 京都大学言語学研究会.
- 日高吉隆 1995, 12 「終助詞「よ」の意味・用法とイントネーション」『創価大学別科紀  
要』9, pp.28-42, 創価大学別科日本語研修課程.
- 三宅知宏 1995, 12 「「推量」について」『国語学』183, pp.86-76, 国語学会.

【1996年】

- 田窪行則・金水敏 1996, 01 「対話と共有知識 —談話管理理論の立場から」『言語』Vol.  
25, No.1, pp.30-39, 大修館書店.
- 蓮沼昭子 1996, 02 「終助詞「よ」の談話機能」, 上田・砂川・高見・野田・蓮沼(編)『言  
語探求の領域 小泉保博士古稀記念論文集』, pp.383-395, 大学書林.
- 松井(山森)良枝 1996, 02 「終助詞の対話理解機能の分析に向けて・Preliminary Report  
—「ね」を例として—」『神戸大学留学生センター紀要』3, pp.109-126,  
神戸大学留学生センター.
- 松井(山森)良枝 1996, 02 「否定疑問文と解釈の多様性」, 上田・砂川・高見・野田・蓮  
沼(編)『言語探求の領域 小泉保博士古稀記念論文集』, pp.487-503, 大  
学書林.
- 井谷玲子 1996, 03 「伝達意図と日本語終助詞 —関連性理論の立場から—」『人文研究』  
126, pp.35-53, 神奈川大学人文学会.
- 川成美香 1996, 03 「依頼表現のモダリティー —終助詞「ね」と「よ」に関する認知語  
用論的考察—」『日本女子大学紀要 文学部』45, pp.55-63, 日本女子大  
学文学部.
- 後藤 齊 1996, 03 「コーパスとしての新聞記事テキストデータ —終助詞「かしら」を  
めぐって—」『東北大学言語学論集』5, pp.37-46, 東北大学言語学研究会.
- 小針浩樹 1996, 03 「同意要求文の位置と形式」『国語学研究』35, pp.66-58, 東北大学文  
学部『国語学研究』刊行会.
- 舒 志田 1996, 03 「ネの意味と機能 —情報の縄張り理論によるネの説明の再検討を  
通して—」『無差』3, pp.37-52, 京都外国語大学日本語学科.
- 中川浩志・小野晋 1996, 04 「日本語の終助詞の機能 —「よ」「ね」「な」を中心とし  
て—」『自然言語処理』Vol.3, No.2, pp.3-18, 言語処理学会.

- Itani, Reiko 1996, 06 *Semantics and Pragmatics of Hedges in English and Japanese*. Tokyo: Hituzi Syobo.
- 中野伸彦 1996, 06 「確認要求の平叙文と終助詞「ね」—江戸語と現代語—, 山口明穂教授還暦記念会(編)『山口明穂教授還暦記念国語学論集』, pp.485-500, 明治書院.
- 河野 武 1996, 07 「日本語終助詞の関連性モダリティにおける位置づけ」『大妻レビュー』29, pp.51-63, 大妻女子大学英文学会.
- 青木惣一 1996, 08 「『確信度』を用いた「のか」の語用論的分析」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』19, pp.1-27, アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター.
- カノックワン・ラオハプラナキット 1996, 08 「『カナ』『カシラ』に関する考察」『日本語と日本文学』23, pp.1-12, 筑波大学国語国文学会.
- 又平恵美子 1996, 08 「終助詞の研究 —「っけ」の機能—」『筑波日本語研究』1, pp.21-33, 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室.
- 三宅知宏 1996, 08 「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89, pp.111-122, 日本語教育学会.
- 伊豆原英子 1996, 09 「終助詞「な(なあ)」の一考察 —聞き手に何を伝えているのか—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』4, pp.65-82, 名古屋大学留学生センター.
- 田窪行則・金水敏 1996, 09 「複数の心的領域における談話管理」『認知科学』Vol.3, No.3, pp.59-74, 日本認知科学会.
- 伴紀子・架谷真知子 1996, 09 「誤用からみた終助詞「ね」の指導法」『アカデミア 文学・語学編』61, pp.135-156, 南山大学.
- 岡本真一郎 1996, 11 「情報への関与と文末形式 —「情報のなわ張り理論」の批判的検討と新モデルの提案—」『心理学評論』Vol.39, No.2, pp.168-204, 心理学評論刊行会.
- 鷲 留美 1996, 11 「現代日本語の性差についての一考察 —女ことばとしての終助詞「わ」を巡って」『日本語・日本文化研究』6, pp.43-56, 大阪外国語大学日本語講座.
- 坪根由香里 1996, 12 「終助詞・接続助詞としての「もの」の意味 —「もの」「ものなら」「ものの」「ものを—」『日本語教育』91, pp.37-48, 日本語教育学会.
- 中野伸彦 1996, 12 「Ⅲ型の確認要求の平叙文と終助詞「ね」」『山口大学教育学部研究論叢—人文科学・社会科学—』46, pp.27-34, 山口大学教育学部.

谷部弘子 1996, 12 「新聞報道の外国人談話に見る男女差 —文体と終助詞使用の關係を中心に—」『ことば』17, pp.58-72, 現代日本語研究会.

【1997年】

- 井上 優 1997, 02 「もしもし、切符を落とされましたよ —終助詞「よ」を使うことの意味」『言語』Vol.26, No.2, pp.62-67, 大修館書店.
- 松井(山森)良枝 1997, 02 「ぞ」と「ぜ」について —新しいコミュニケーションの記述に向けて—」『神戸大学留学生センター紀要』4, pp.47-62, 神戸大学留学生センター.
- 横山正幸 1997, 02 「幼児による終助詞ヨの獲得 —R児の場合—」『福岡教育大学紀要 第四分冊 教職科編』46, pp.253-259, 福岡教育大学.
- 伊藤俊一 1997, 03 「終助詞による文末表現が示す発話状況」『愛知教育大学研究報告人文・社会科学編』46, pp.191-196, 愛知教育大学.
- 大浜るい子 1997, 03 「関連性理論から見た終助詞「よ」「ね」の機能」『広島大学教育学部紀要 第二部』45, pp.273-281, 広島大学教育学部.
- 福島悦子 1997, 03 「意見を述べる発話における終助詞の働き」『東北大学留学生センター紀要』3, pp.62-67, 東北大学留学生センター.
- 山森良枝 1997, 03 「終助詞の局所的情報処理機能」, 谷泰(編)『コミュニケーションの自然誌』, pp.130-172, 新曜社.
- 小川早百合 1997, 05 「現代の若者会話における文末表現の男女差」, 日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念編集委員会(編)『日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念—』, pp.205-220, 凡人社.
- 片桐恭弘 1997, 05 「終助詞とイントネーション」, 音声文法研究会(編)『文法と音声』, pp.235-256, くろしお出版.
- 小山哲春 1997, 05 「文末詞と文末イントネーション」, 音声文法研究会(編)『文法と音声』, pp.97-119, くろしお出版.
- 蓮沼昭子 1997, 05 「終助詞「よ」の談話機能 —その2—」, 日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念編集委員会(編)『日本語教育論集—小出詞子先生退職記念—』, pp.581-599, 凡人社.
- 井出祥子・櫻井千佳子 1997, 06 「視点とモダリティの言語行動」, 田窪行則(編)『視点と言語行動』, pp.119-153, くろしお出版.
- 小野晋・中川裕志 1997, 06 「階層的記憶モデルによる終助詞「よ」「ね」「な」「ぞ」「ぜ」の意味論」『認知科学』Vol.4, No.2, pp.39-57, 日本認知科学会.

- 綿巻 徹 1997, 08 「自閉症児における共感獲得表現助詞「ね」の使用の欠如：事例研究」  
『発達障害研究』Vol.19, No.2, pp.146-157, 日本発達障害学会.
- 宇佐美まゆみ 1997, 09 「「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス」,  
現代日本語研究会(編)『女性のことば・戦場編』, pp.241-268, ひつじ書房.
- 尾崎喜光 1997, 09 「女性専用の文末形式のいま」, 現代日本語研究会(編)『女性のことば・戦場編』, pp.33-58, ひつじ書房.
- 森山卓郎 1997, 10 「「独り言」をめぐる ―思考の言語と伝達の言語―」, 川端善明・仁田義雄(編)『日本語文法 体系と方法』, pp.173-188, ひつじ書房.
- 橋本佳美 1997, 11 「終助詞「もの」 ―話し手の論理による説明―」『日本語・日本文化研究』7, pp.201-212, 大阪外国語大学日本語講座.
- 鷲 留美 1997, 11 「終助詞と発話類型 ―東京語終助詞「わ」と「な」の談話における働き―」『日本語・日本文化研究』7, pp.65-79, 大阪外国語大学日本語講座.
- Takubo Yukinori and Satoshi, Kinsui 1997, 12 Discourse management in terms of mental spaces. *Journal of pragmatics* Vol.28, No.6, pp.741-758.

## 【1998年】

- 神尾昭雄 1998, 01 「情報のなわ張り理論：基礎から最近の発展まで」, 中右実(編)『日英語比較選書2 談話と情報構造』, pp.1-111, 研究社出版.
- 秋山 学 1998, 02 「終助詞「な」の機能 ―発話様式の適切さに関する諸要素から見た一考察―」『日本語と日本文学』26, pp.10-22, 筑波大学国語国文学会.
- 金水敏・田窪行則 1998, 02 「談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究」, 堂下・新美・白井・田中・溝口(編)『音声による人間と機械の対話』, pp.257-271, オーム社.
- 鈴木英夫 1998, 02 「現代日本語の終助詞 ―「な」を中心として―」, 国語研究論集編集委員会(編)『東京大学国語研究室創設百周年記念 国語研究論集』, pp.961-981, 汲古書院.
- 鈴木英夫 1998, 02 「現代日本語における女性語の文末詞」, 佐々木峻・藤原与一(編)『日本語文末詞の歴史的研究』, pp.139-164, 三弥井書店.
- 今田滋子 1998, 03 「日本語の疑問文末「か」のイントネーション再考 ―テレビ談話資料を中心に―」『広島大学日本語教育学科紀要』8, pp.23-31, 広島大学教育学部日本語教育学科.

- 須藤路子・岡田光弘・西山佑司 1998, 03 「日本語の文末表現における意味解釈と音響特性」『順天堂大学スポーツ健康科学研究』2, pp.12-16, 順天堂大学.
- 長崎靖子 1998, 03 「江戸語の終助詞「さ」の機能に関する一考察」『国語学』192, pp.13-26, 国語学会.
- 西山令子 1998, 03 「終助詞「ね」の機能 —「働きかけ」の文と「ね」」『教育学研究紀要 第二部』43, pp.419-422, 中国四国教育学会.
- 福島和郎 1998, 03 「終助詞「よ」と「ね」の性質」『文教大学国文』27, pp.16-31, 文教大学国文学会.
- 遠藤織枝・尾崎喜光 1998, 06 「女性のことばの変遷 —文末・コト・テヨ・ダワを中心に—」『日本語学』Vol.17, No.6, pp.56-79, 明治書院.
- 井谷玲子 1998, 09 「日本語終助詞「ネ」についての考察」『人文研究』133, pp.19-46, 神奈川大学人文学会.

【1999年】

- 熊野七絵 1999, 03 「言語変化の過程として見た「ね」と「な」」『教育学研究紀要 第二部』44, pp.410-414, 中国四国教育学会.
- 福田恵子 1999, 03 「終助詞「よ」の現れる発話分析」『拓殖大学日本語紀要』9, pp.19-39, 拓殖大学留学生別科.
- 井島正博 1999, 05 「〔連載〕助詞から探る日本文法5 終助詞・間投助詞あるいはコミュニケーション行為構造」『言語』Vol.28, No.5, pp.114-119, 大修館書店.
- 安達太郎 1999, 06 「日本語疑問文における判断の諸相」くろしお出版.
- 徐 愛紅 1999, 07 「「イイ」と「イイヨ」の意味機能 —談話における応答を中心に—」『日本語教育』101, pp.71-80, 日本語教育学会.
- 井上 優 1999, 08 「状況認知と終助詞 —「ね」の機能—」『日本語学』Vol.18, No.9, pp.79-86, 明治書院.
- 宮崎和人 1999, 10 「確認要求表現としての「ダロウネ」」『日本語科学』6, pp.71-90, 国立国語研究所.
- 服部 匡 1999, 12 「終助詞ネの音調に関する森山説への疑問」『国語学』199, pp.90-92, 国語学会.
- 深尾まどか 1999, 12 「終助詞「よね」について」『日本語教育研究』38, pp.90-98, 言語文化研究所.

## 【2000年】

- 今尾ゆき子 2000, 03 「終助詞「ナ」の機能」『鈴鹿国際大学紀要』7, pp.1-12, 鈴鹿国際大学.
- 熊野七絵 2000, 03 「文末の「かね」の意味・機能 —「疑いの表現」としての位置づけ—」『広島大学留学生センター紀要』10, pp.31-41, 広島大学留学生センター.
- 青 再京 2000, 03 「終助詞「ね」の機能 —文レベルと談話レベルにおいて—」『国語学研究』39, pp.31-22, 東北大学文学部「国語学研究」刊行会.
- 綱直信子 2000, 03 「談話参加者の情報量と文末表現 —ネ・ダロウ・ノダロウを中心に—」『千葉工業大学研究報告 人文編』37, pp.73-81, 千葉工業大学.
- 中村純子 2000, 03 「終助詞における男性語と女性語」『信州大学留学生センター紀要』1, pp.1-11, 信州大学留学生センター.
- 橋本 修 2000, 03 「終助詞「ね」の、自然下降型イントネーション」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究成果報告書 平成11年度Ⅲ』, pp.117-128, 筑波大学.
- 林 朝子 2000, 03 「終助詞「よ」が持つ「失礼さ」の度合い」『三重大学留学生センター紀要』2, pp.39-51, 三重大学留学生センター.
- 三宅知宏 2000, 03 「疑念表明の表現について —カナ、カシラを中心に—」『鶴見大学紀要 第1部国語・国文編』37, pp.8-21, 鶴見大学.
- 宮崎和人 2000, 04 「ムードとモダリティ」『日本語学増刊号 新・文法用語入門』Vol.19, No.5, pp.50-61, 明治書院.
- 宮崎和人 2000, 07 「確認要求表現の体系性」『日本語教育』103, pp.7-16, 日本語教育学会.
- 田窪行則・金水敏 2000, 08 「複数の心的領域による談話管理」, 坂原茂(編)『認知言語学の発展』, pp.251-280, ひつじ書房.
- Tanaka Hiroko 2000, 08 The particle *ne* as a turn-management device in Japanese conversation. *Journal of Pragmatics* Vol.32, No.9, pp.1135-1176.
- 富樫純一 2000, 08 「非文末「ですね」の談話語用論的機能 —心内の情報処理の観点から—」『筑波日本語研究』5, pp.70-91, 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室.
- 又平恵美子 2000, 08 「明治・大正期の文末表現 —終助詞「わよ」—」『筑波日本語研究』5, pp.53-69, 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室.
- 西川弘達 2000, 09 「終助詞「よ」使用に関する学習者の認識」『南山大学国際教育センター紀要』1, pp.195-207, 南山大学国際教育センター.

- 金水 敏 2000, 11 「役割語探求の提案」, 佐藤喜代治(編)『国語論究第8集 国語史の新視点』, pp.311-351, 明治書院.
- 川上 泰 2000, 12 「服部氏のネの音調の説に同調」『国語学』203, pp.33-34, 国語学会.
- 曹 再京 2000, 12 「終助詞「よ」の機能」『言語科学論集』4, pp.1-12, 東北大学文学部言語科学専攻.
- 松岡みゆき 2000, 12 「終助詞「ね」の担う検索機能」『日本語学・日本語教育論集』7, pp.31-50, 名古屋学院大学留学生別科.

【2001年】

- 半藤英明 2001, 02 「間投助詞から「表情詞」へ —終助詞と間投助詞のカテゴリー再編—」『静岡英和女学院短期大学紀要』33, pp.45-56, 静岡英和女学院短期大学.
- 柏木成章 2001, 03 「終助詞論」『大東文化大学紀要 人文学部』39, pp.1-12, 大東文化大学.
- 田中 彰 2001, 03 「終助詞「よ」のイントネーション・パターン分析 —疑問／平叙との比較・その選択の談話への依存—」『麗澤大学大学院言語教育研究科年報』3, pp.83-100, 麗澤大学大学院言語教育研究科.
- 丹羽一彌 2001, 03 「日本語「終助詞」の分類」『人文科学論集 文化コミュニケーション学科編』37, pp.27-44, 信州大学人文学部.
- 松村瑞子 2001, 03 「日本語の会話に見られる男女差」『比較社会文化』7, pp.69-75, 九州大学大学院比較社会文化学府.
- 井上 菟子 2001, 04 「終助詞 —「ね」と「よ」—」『教育国語』4(2), pp.4-27, 教育科学研究会・国語部会.
- 光本浩士・濱崎敏幸・大多和寛・田村進一・柳田益造 2001, 05 「終助詞「ね」の韻律による皮肉と賞賛の識別」『電子情報通信学会論文誌 情報・システムⅡ—パターン処理』Vol.J84-D-II, No.5, pp.851-853, 電子情報通信学会.
- 服部 匡 2001, 06 「終助詞ねに関する二三の観察 —落語を音声資料として—」『同志社女子大学日本語日本文学』13, pp.1-10, 同志社女子大学日本語日本文学会.
- 伊豆原英子 2001, 08 「「ね」と「よ」再再考」『愛知学院大学教養部紀要』49(1), pp.35-49, 愛知学院大学教養教育研究会.
- 加藤重広 2001, 08 「文末助詞「ね」「よ」の談話構成機能」『富山大学人文学部紀要』35, pp.31-48, 富山大学人文学部.
- メイナード, 泉子・K 2001, 09 「日本語文法と感情の接点 —テレビドラマに会話分析



を応用して一」『日本語文法』Vol.1, No.1, pp.90-110, 日本語文法学会。

小林千草 2001, 10 「女性のことば今昔 —「ちげーよ」と「よくってよ」」『國文學』Vol. 46, No.12, pp.34-41, 學燈社。

犬飼 隆 2001, 12 「低く短く付く終助詞「ね」, 音声文法研究会(編)『文法と音声Ⅲ』, pp.17-29, くろしお出版。

杉藤美代子 2001, 12 「終助詞「ね」の意味・機能とイントネーション」, 音声文法研究会(編)『文法と音声Ⅲ』, pp.3-16, くろしお出版。

森山卓郎 2001, 12 「終助詞「ね」のイントネーション —修正イントネーション制約の試み—」, 音声文法研究会(編)『文法と音声Ⅲ』, pp.31-54, くろしお出版。

### 【2002年】

許 夏玲 2002, 03 「話し言葉における文末表現と終助詞「ネ」「ヨ」の共起関係 —「ネ」「ヨ」が付かない文末表現を中心に—」『言葉と文化』3, pp.111-126, 名古屋大学国際言語文化研究科。

柴原智代 2002, 03 「「ね」の習得 —2000/2001長期研修 OPI データの分析—」『日本語国際センター紀要』12, pp.19-34, 日本語国際センター。

前田広幸 2002, 03 「終助詞の階層と接続上の音調特性 —現代東京語と京都語の対照」『奈良教育大学国文』25, pp.77-66, 奈良教育大学国文学会。

宮崎和人 2002, 03 「終助辞「ネ」と「ナ」」『阪大日本語研究』14, pp.1-19, 大阪大学大学院文学研究科日本語講座。

野田春美 2002, 06 「終助詞の機能」, 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『新日本語文法選書4 モダリティ』, pp.261-288, くろしお出版。

神尾昭雄 2002, 09 「続・情報のなわ張り理論」大修館書店。

丸山岳彦 2002, 09 「話しことばコーパスに現れる「ですね」の分析」『さわらび』11, pp. 39-48, 神戸市外国語大学外国語学部。

中崎 崇 2002, 11 「独話場面における終助詞「ヨ」の機能」『日本語・日本文化研究』12, pp.105-115, 大阪外国語大学日本語講座。

服部 匡 2002, 12 「ネとナの音調の計量的比較」『同志社女子大学学術研究年報』53(1), pp.1-13, 同志社女子大学。

### 【2003年】

金水 敏 2003, 01 「ヴァーチャル日本語 役割語の謎」岩波書店。

相澤真波 2003, 03 「少女マンガにみる女ことば」『明海日本語』8, pp.85-99, 明海大学

日本語学会.

- 松岡みゆき 2003, 03 「談話場における終助詞ヨの機能」『言葉と文化』4, pp.53-69, 名古屋大学国際言語文化研究科.
- 李 徳霞 2003, 03 「若い世代の話し言葉における日本語の性差について —終助詞と人称代名詞を中心に—」『社会環境研究』8, pp.137-145, 金沢大学大学院社会環境科学研究科.
- 山西正子 2003, 07 「現代語における終助詞「さ」の性格」『目白大学人文学部紀要』10, pp.1-14, 目白大学人文学部.
- Kawasaki Kyoko and Kirsty McDougall 2003, 09 Implications of Representations of Casual Conversation: A Case Study in Gender-associated Sentence Final Particles. 『日本語教育論集 世界の日本語教育』13, pp.41-55, 国際交流基金日本語国際センター.
- 綿巻 徹 2003, 10 「終助詞「ね」と人・関係指向の会話 —自閉症児の会話分析と座談会の会話分析から」『國文學』Vol.48, No.12, pp.78-85, 學燈社.
- 谷川依津江 2003, 11 「「ね」のイントネーションと話題に関わる機能 —上昇下降イントネーションと平坦イントネーションを伴う「ね」に注目して—」『日本語・日本文化研究』13, pp.149-159, 大阪外国語大学日本語講座.
- 中崎 崇 2003, 11 「疑問型情報受容文と終助詞「ヨ」」『日本語・日本文化研究』13, pp. 87-96, 大阪外国語大学日本語講座.
- 任 利 2003, 11 「終助詞「かしら」における男女差の形成 —近代小説における用例調査を中心に—」『筑波日本語研究』8, pp.72-89, 筑波大学人文社会科学研究所日本語学研究室.
- 伊豆原英子 2003, 12 「終助詞「よ」「よね」「ね」再考」『愛知学院大学教養部紀要』51(2), pp.1-15, 愛知学院大学教養教育研究会.

「現代日本語終助詞研究文献目録」著者別索引

- ・現代日本語終助詞研究文献目録に採録した論文の著者名を五十音順で並べ、論文の発表年月を添えた。
- ・外国人名は、中国語・韓国語の表記も含め、全て日本語読みをし、該当する五十音の項に置いた。
- ・共著者名でも引けるよう、セカンドオーサー以降の著者名も並べてある。

【ア】

相澤真波 2003, 03  
青木惣一 1996, 08  
秋山 学 1998, 02  
安達太郎 1999, 06

【イ】

池田 裕 1995, 11  
石川禎紀 1972, 09  
井島正博 1999, 05  
伊豆原英子  
1992, 10 1993, 07  
1993, 09 1994, 07  
1994, 09 1996, 09  
2001, 08 2003, 12  
井谷玲子  
1996, 03 1998, 09  
(Itani, Reiko)  
1993, 06 1996, 06  
井出祥子  
(Ide Sachiko) 1990, 06  
(一・櫻井千佳子) 1997, 06  
伊藤俊一 1997, 03  
犬飼 隆 2001, 12  
井上菟子 2001, 04  
井上 優  
1990, 12 1993, 03  
1997, 02 1999, 08

今尾ゆき子 2000, 03

今田滋子 1998, 03

【ウ】

上野田鶴子 1972, 10.  
宇佐美まゆみ 1997, 09  
梅原恭則 1989, 03

【エ】

遠藤織枝  
(一・尾崎喜光) 1998, 06

【オ】

大嶋真紀 1989, 07  
大曾美恵子  
1986, 09 1991, 09  
太田淑子 1992, 10  
大多和寛  
(光本浩士・濱崎敏幸・一  
・田村進一・柳田益造)  
2001, 05  
大浜るい子 1997, 03  
岡田光弘  
(須藤路子・一・西山佑司)  
1998, 03  
岡本真一郎  
1993, 10 1996, 11  
小川早百合 1997, 05

小倉 肇 1985, 04

尾崎喜光 1997, 09

(遠藤織枝・一) 1998, 06

尾田豊子 1964, 11

小野 晋

(一・中川裕志)

1993, 11 1997, 06

(一・森辰則・中川裕志)

1993, 03

(中川裕志・一) 1996, 04

【カ】

Kirsty McDougall

(Kawasaki Kyoko and 一)

2003, 09

柏木成章 2001, 03

片桐恭弘

1995, 11 1997, 05

加藤重広 2001, 08

カノックワン・ラオハブラ

ナキット 1996, 08

神尾昭雄

1990, 05 1998, 01

2002, 09

架谷真知子

(伴紀子・一) 1996, 09

川上 泰 2000, 12

Kawasaki Kyoko

(一 and Kirsty McDougall)  
2003, 09

川成美香 1996, 03

川森雅仁 1991, 07

【キ】

北川千里 1984, 08

北澤 尚 1983, 03

北野浩章 1993, 12

許 夏玲 2002, 03

吉良文孝 1995, 03

金水 敏

1991, 03 1991, 12

1993, 04 2000, 11

2003, 01

(一・田窪行則) 1998, 02

(田窪行則・一)

1996, 01 1996, 09

2000, 08

(Takubo Yukinori and 一)

1997, 12

【ク】

楠本徹也 1995, 03

熊野七絵

1999, 03 2000, 03

【コ】

河野 武 1996, 07

国立国語研究所

1951, 03 1960, 06

古座暁子 1989, 06

後藤 斉 1996, 03

小林千草 2001, 10

小針浩樹 1996, 03

小松寿雄

1970, 04 1988, 11

小山哲春 1997, 05

近藤研至

1993, 03 1993, 12

【サ】

佐久間鼎 1940, 04

櫻井千佳子

(井出祥子・一) 1997, 06

佐々木泰子 1992, 12

佐治圭三 1957, 07

【シ】

柴原智代 2002, 03

下山千秋 1995, 12

徐 愛紅 1999, 07

舒 志田 1996, 03

莊司育子 1992, 11

白川博之

1992, 07 1993, 03

【ス】

杉藤美代子 2001, 12

鈴木英夫

1976, 11 1988, 03

1998, 02 1998, 02

須藤路子

(一・岡田光弘・西山佑司)

1998, 03

【ソ】

曹 再京

2000, 03 2000, 12

【タ】

田窪行則 1992, 11

(一・金水敏)

1996, 01 1996, 09

2000, 08

(一 and Satoshi, Kinsui)

1997, 12

(金水敏・一) 1998, 02

(益岡隆志・一) 1992, 05

田中章夫

1973, 02 1977, 02

1977, 09

田中 彰 2001, 03

田中健子 1958, 09

田中俊子 1989, 12

Tanaka Hiroko 2000, 08

谷川依津江 2003, 11

田野村忠温

1988, 03 1990, 01

1991, 12

田村進一

(光本浩士・濱崎敏幸・大  
多和寛・一・柳田益造)

2001, 05

【チ】

陳 常好 1987, 10

【ツ】

Tsuchihashi Mika 1983, 08

坪根由香里 1996, 12

【テ】

鄭 相哲

1992, 03 1993, 03

1995, 10

【ト】

銅直信子 2000, 03

冨樫純一 2000, 08

時枝誠記

1950, 09 1951, 12  
徳井(坂井)厚子 1995, 02

## 【ナ】

中川浩志  
(一・小野晋) 1996, 04  
(小野晋・一)  
1993, 11 1997, 06  
(小野晋・森辰則・一)  
1993, 03

中崎 崇  
2002, 11 2003, 11  
長崎靖子 1998, 03  
中西泰洋 1993, 02  
中野伸彦  
1991, 12 1993, 10  
1993, 11 1995, 10  
1996, 06 1996, 12

中村純子 2000, 03  
生田目弥寿 1979, 03

## 【ニ】

西川弘達 2000, 09  
西山佑司  
(須藤路子・岡田光弘・一)  
1998, 03

西山令子 1998, 03  
丹羽一彌 2001, 03  
任 利 2003, 11

## 【ノ】

野田恵子 1993, 12  
野田春美  
1993, 10 2002, 06

## 【ハ】

芳賀 綏 1954, 04

橋本 修  
1992, 05 1992, 11  
1993, 07 2000, 03

橋本進吉  
1934, 12 1935

橋本佳美 1997, 11  
蓮沼昭子  
1988, 06 1992, 09  
1995, 05 1996, 02  
1997, 05

服部 匡  
1992, 03 1992, 12  
1995, 12 1999, 12  
2001, 06 2002, 12

濱崎敏幸  
(光本浩士・一・大多和寛  
・田村進一・柳田益造)  
2001, 05

林 朝子 2000, 03  
林 大 1986, 05  
伴 紀子  
(一・架谷真知子)  
1996, 09  
半藤英明 2001, 02

## 【ヒ】

日高吉隆 1995, 12

## 【フ】

深尾まどか 1999, 12  
福島悦子  
1993, 12 1994, 03  
1997, 03  
福島和郎 1998, 03  
福田恵子 1999, 03  
藤原真理 1991, 09  
藤原与一 1953, 09

古本裕子 1993, 01

## 【マ】

前田広幸 2002, 03  
牧原 功 1994, 12  
マグロイン・花岡直美  
1993, 05  
(McGloin, Naomi Hanaoka)  
1986, 04 1990, 06  
益岡隆志 1991, 05  
(一・田窪行則) 1992, 05  
増倉洋子 1993, 03  
又平恵美子  
1996, 08 2000, 08  
松井(山森)良枝  
1996, 02 1996, 02  
1997, 02

松浦千佳子 1992, 12  
松岡みゆき  
2000, 12 2003, 03  
松木正恵 1993, 10  
松村瑞子 2001, 03  
丸山岳彦 2002, 09

## 【ミ】

三尾 砂 1942, 01  
水谷信子 1984, 07  
光本浩士  
(一・濱崎敏幸・大多和寛  
・田村進一・柳田益造)  
2001, 05  
三宅 清 1991, 03  
三宅知宏  
1993, 03 1995, 12  
1996, 08 2000, 03  
宮崎和人  
1989, 01 1993, 12

1999, 10 2000, 04	2001, 05	
2000, 07 2002, 03	谷部弘子 1996, 12	【ワ】
宮地 裕 1959, 02	山口佳也 1991, 03	鷲 留美
	山田 准 1991, 03	1995, 11 1996, 11
【メ】	山田孝雄	1997, 11
メイナード, 泉子・K	1908, 09 1922, 11	渡辺 実 1968, 03
1993, 01 2001, 09	1936, 05	綿巻 徹
	山西正子 2003, 07	1997, 08 2003, 10
【モ】	山森良枝 1997, 03	
森 辰則		
(小野晋・一・中川浩志)	【ヨ】	
1993, 03	横山正幸	
森山卓郎	1992, 02 1997, 02	
1989, 03 1989, 08	吉田茂晃 1994, 02	
1989, 09 1992, 10		
1997, 10 2001, 12	【リ】	
	李 徳霞 2003, 03	
【ヤ】		
柳田益造	【レ】	
(光本浩士・濱崎敏幸・大	Reynolds, Katsue Akiba	
多和寛・田村進一・一)	1990, 06	

とがし じゅんいち / 筑波大学博士特別研究員  
(2004年8月27日 受理)